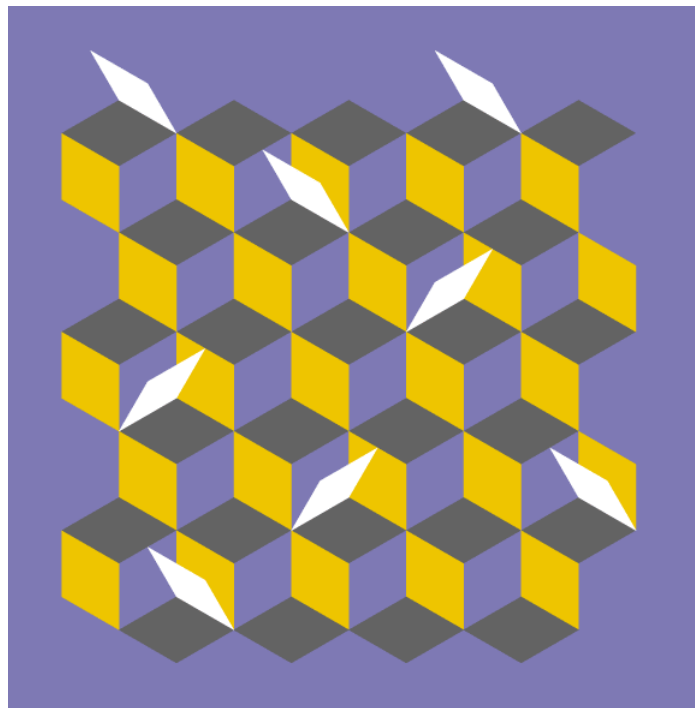


令和6年10月31日作成

EA(エコアクション)21
令和5年度
(30期:R05.06~R06.05)
環境経営レポート



東亜富士巧業株式会社

【 目 次 】

表 紙	1
目 次・注 記	2
1. 組織の概要	3
1) 事業所名及び代表者氏名	3
2) 所在地	3
3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先	3
4) 事業の概要	3
5) 事業規模	4
2. 対象範囲(認証・登録範囲)、レポートの対象期間及び発行日	4
3. 環境経営方針	5
4. 環境経営目標	6
5. 環境経営計画	7
6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容(実施体制を含む)	8・9
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、 並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画	10・11・12・13・14
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	15
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示	16
10. 次年度以降の目標値	16
11. 環境及び SDGsに関する活動とまとめ	17・18・19・20

【 注 記 】

以下、本文内にて

- ・28 期とは、R03.06 ～ R04.05
- ・29 期とは、R04.06 ～ R05.05
- ・30 期とは、R05.06 ～ R06.05
- ・31 期とは、R06.06 ～ R07.05

を示す。

1. 組織の概要

1) 事業所名及び代表者氏名

東亜富士巧業株式会社
取締役工場長 手塚 基

2) 所在地

〒418-0007 静岡県富士宮市外神東町 59 (東亜富士巧業(株) 本社・富士宮工場)
〒418-0111 静岡県富士宮市山宮 2297-6 (東亜富士巧業(株) 山宮工場)

3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 品質保証 G 統括次長 松浦 啓一
担当者連絡先(EA 事務局) : 総務G 経理 主事 望月 寿人

TEL : 0544-58-4121 / FAX : 0544-59-1585

E-mail: matsuura@toa-fuji.co.jp / mochidukih@toa-fuji.co.jp

URL : <http://www.toasiko.co.jp>

4) 事業の概要

パッケージ・ラベル等の印刷・加工・製函、化粧品・医薬部外品等の包装・表示・保管

[製品紹介]



5) 事業規模

(注: 上段は富士宮工場、下段()内数値は山宮工場)

項目	単位	R03(28期)	R04(29期)	R05(30期)
資本金	万円	3,000		
売上高	百万円 (原単位に使用)	2,615	2,966	2,884
従業員数	人	152 (51)	171 (49)	168 (48)
床面積	m ²	13,480 (2,624)		
立地条件	—	準工業区域		



富士宮工場



山宮工場

2. 対象範囲(認証・登録範囲)、レポートの対象期間及び発行日

認証・登録事業者: 東亜富士巧業株式会社
静岡県富士宮市外神東町59

対象事業所: 本社・富士宮工場、山宮工場

レポートの対象期間: 令和5年6月1日～令和6年5月31日

発行日: 令和6年10月31日

3. 環境経営方針

《方針》

1. 当社は、印刷紙器および周辺事業を行う中で環境への負荷低減を図り、持続可能な社会の実現に貢献する。尚ここではSDGsの17の目標の内、以下7項目を強く意識し進めていく。

- 7・ エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- 8・ 働きがいも経済成長も
- 9・ 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 12・ つくる責任 つかう責任
- 13・ 気候変動に具体的な対策を
- 14・ 海の豊かさを守ろう
- 15・ 陸の豊かさも守ろう

2. 当社は、組織の活動や製品に関わる環境関連法規、その他要求事項を遵守する。

3. 当社は、組織の活動や製品に関わる以下の項目を環境管理重点テーマとして掲げ、継続して改善に取り組む。

- ①工場から排出する廃棄物(特に不良品)の削減。
- ②工場にて使用するエネルギー使用量の削減。
- ③工場から排出する二酸化炭素(CO₂)排出量の削減。
- ④工場にて使用する水使用量(排水量)の削減。
- ⑤工場にて使用する化学物質使用量の削減。
- ⑥工場にて自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善。
- ⑦工場におけるグリーン購入の推進。
- ⑧工場における生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組の推進。

制定日 :平成 17 年 11 月 28 日

最終改定日:令和 5 年 6 月 29 日

東亜富士巧業株式会社

取締役工場長 手塚 基



4. 環境経営目標

課題	令和 5 年度(30 期)目標	中長期目標
二酸化炭素 排出量削減	R04 年度 (29 期) 比 2%削減	R06 年度 (31 期) は、 R03 年度 (28 期) 比 5%削減
廃棄物排出量削減 (注 1)	R04 年度 (29 期) 比同等以下	R06 年度 (31 期) は、 R03 年度 (28 期) 比同等以下
水使用量削減 (注 2)	R04 年度 (29 期) 比同等以下	R06 年度 (31 期) は、 R03 年度 (28 期) 比同等以下
化学物質使用量 削減	R04 年度 (29 期) 比 20%削減	R06 年度 (31 期) は、 R03 年度 (28 期) 比 5%削減
エネルギー 使用量削減	R04 年度 (29 期) 比 2%削減	R06 年度 (31 期) は、 R03 年度 (28 期) 比 5%削減

注 1) 売上高に関係なく排出量削減を目標にするため、原単位ではなく実量で比較する。

注 2) 水使用量についても、原単位ではなく実量で比較する。

※29 期よりラベル部門、Xレイ部門が加わるが、廃棄物排出量と水使用量は 28 期同等以下を目標とする。

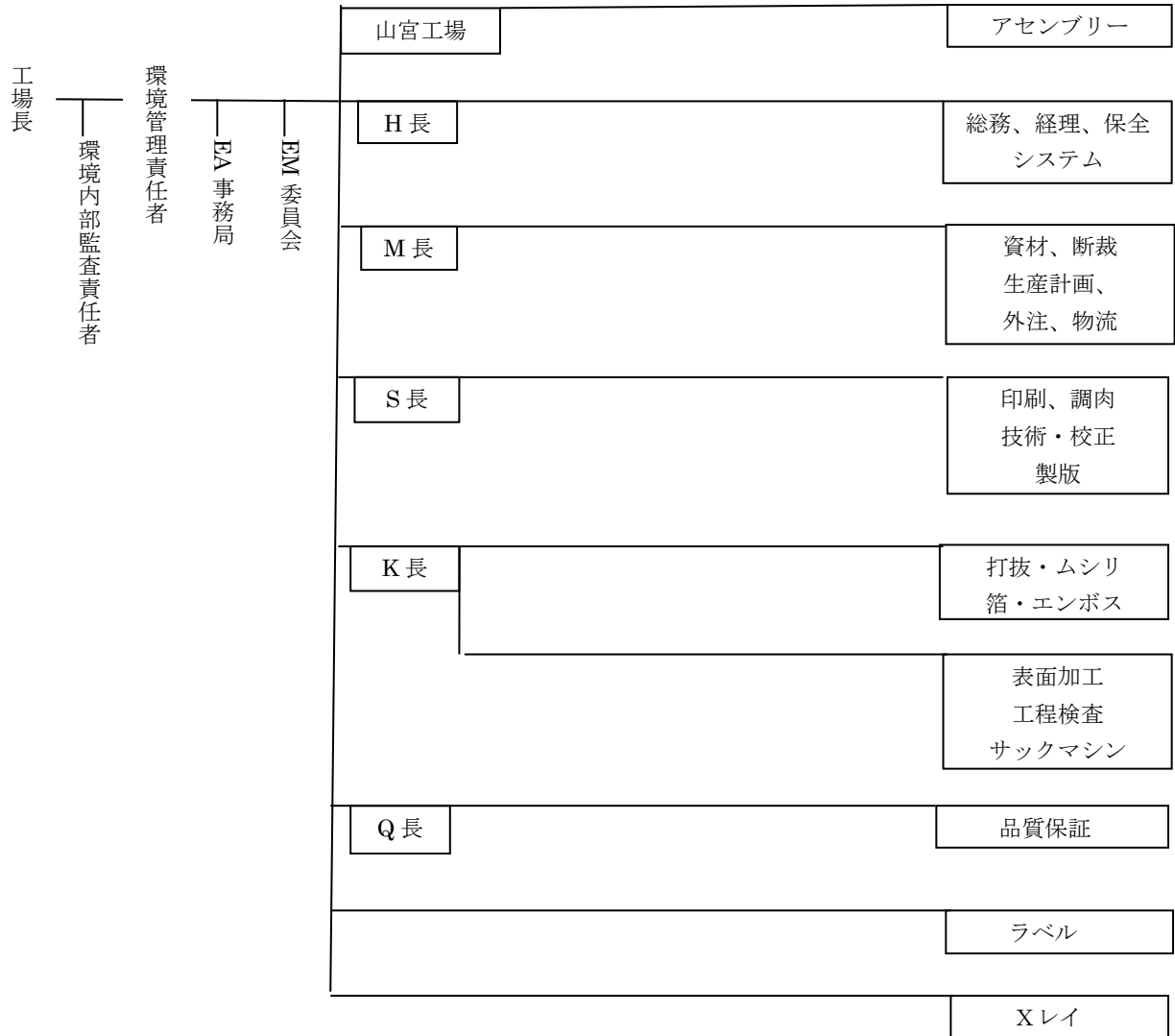
5. 環境経営計画

課題	環境経営計画
<p style="text-align: center;">廃棄物排出量 削減</p>	①廃棄物の分別及び指導と整理整頓を継続する。
	②製紙特寸による用紙削減を図る。
	③廃液削減装置を継続活用する。
	④3Rを推進する。
	⑤印刷不良の原因特定と対策で廃棄物排出量を削減する。
	⑥抜型用ベニヤと用紙使用量を削減するため取り都合を見直す。
	⑦ペーパーレス化を推進する。
	⑧良品作りによる異常やショートを削減する。
	⑨段ボールの再利用を推進する。
<p style="text-align: center;">二酸化炭素排出量 ・ エネルギー使用量 削減</p>	①製版起因の再版出力を削減する。
	②不在者エリアなどの不用照明をこまめに消灯する。
	③空調機フィルターの清掃を推進する。
	④ボイラーを停止する。(昼休み時間)
	⑤UVランプの消灯を推進する。(切り替え時・昼休み・機械修理時)
	⑥空調設備の適切な運転をする。
	⑦資材と物流関連における輸送方法の見直しでCO2排出量を削減する。
	⑧取り都合改善による製造時間を削減する。(エネルギー使用量削減)
	⑨ペーパーレス化を推進する。(CO2削減)
	⑩品質を安定させ生産効率を上げる。
<p style="text-align: center;">水使用量削減</p>	①タイマー管理等により地下水汲上げを最少量にする。
	②防火用水(貯水池)の補水を最少量にする。
	③こまめな節水を実行する。
<p style="text-align: center;">化学物質使用量削減</p>	①環境への負荷が少ない物に替えていく。
	②溶剤のムダ使いをしないように使用量の適正管理を行う。

6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

課題	取組内容
<p>廃棄物排出量 削減</p>	①廃棄物の分別及び指導と整理整頓を継続して実施しました。
	②製紙特寸により用紙の削減を図りました。
	③廃液削減装置を継続して活用しました。
	④コピー用紙の再利用など 3Rの推進に努めました。
	⑤色調異常の発生と流出を防ぐため、検査能力の強化を進めました。
	⑥取り都合を見直して抜型ベニヤと用紙使用量を削減しました。
	⑦用紙手配や変更連絡票等のペーパーレス化を行いました。
	⑧ショートや異常をまとめて作業員に周知して意識づけを行いました。
	⑨段ボールの再利用を推進し廃棄物と経費削減に努めました。
<p>二酸化炭素排出量 ・ エネルギー使用量 削減</p>	①製版起因の再版出力原因をまとめ、検版前に照合しました。
	②不在者エリアなどの不要照明をこまめに消灯しました。
	③空調設備の簡易点検とフィルターの清掃を定期的に行いました。
	④昼休み時間は、ボイラーを停止しました。
	⑤UVランプの消灯を実施しました。(切替え時・昼休み・機械修理時)
	⑥空調設備のタイマー運転や設定温度遵守を行いました。
	⑦用紙納入及び出荷運行回数を集約し自社便の省エネ運転を行いました。
	⑧取り都合改善により製造時間削減に努めました。
	⑨ペーパーレス化を心掛けました。
	⑩品質を安定させ生産効率を上げるよう努めました。
<p>水使用量削減</p>	①地下水汲上げを必要な分だけにしました。
	②防火用水(貯水池)の補水を最少量にしました。
	③手洗時やトイレ等で、こまめな節水を実行しました。
<p>化学物質使用量削減</p>	①環境負荷の少ない物に随時替えるよう努めました。
	②溶剤をウエスに適量浸透させて使用する等で削減を心掛けました。
<p>その他取組み事項</p>	<p>①「富士山 SDGs推進パートナー」を宣言し、取組を進めています。</p> <p>※富士宮市と富士宮信用金庫、富士宮商工会議所、芝川商工会、東京海上日動火災保険株式会社の5者は、相互に連携・協力し、地域におけるSDGs活動の推進と持続的な発展に向けて「富士山SDGs推進パートナー制度」を立ち上げました。弊社は、これに賛同し「富士山SDGs推進パートナー」を宣言致しました。</p>

実施体制



7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、
並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境経営目標の実績

(注1:数値は原単位にて表記)

(注2:上段は富士宮工場、下段()内数値は山宮工場)

(1) 二酸化炭素排出量削減 (注3:*総量kg-CO2)

項目	単位	R03(28期)	R04(29期)	R05(30期)
二酸化炭素 排出量	Kg-CO2/ 百万円	804.46 (36.62) *2,199,433	527.58 (24.01) *1,635,995	444.06 (21.25) *1,341,949

【排出係数】

28期:0.629 kg-CO2/kWh (株式会社エナリスの調整後排出係数)

29期:6月は0.580 kg-CO2/kWh(株式会社エナリスの調整後排出係数) 7月~3月は
0.435 kg-CO2/kWh(東京電力パワーグリッド(株)の調整後排出係数)、4・5月は
0.457 kg-CO2/kWh(東京電力エナジーパートナー(株)の調整後排出係数)

30期:0.390 kg-CO2/kWh(東京電力エナジーパートナー(株)の調整後排出係数)

【目標値】

30期は29期比2%削減 ⇒ 富士宮工場 10.55 kg-CO2/百万円 削減
山宮工場 0.48 kg-CO2/百万円 削減

※各種活動の成果とCO2排出係数が小さくなったことによって、目標を大きく達成することが
出来ました。(富士宮工場 15.8%削減、山宮工場 11.5%削減、全体で 15.6%削減)

(2) 廃棄物排出量削減(原単位ではなく実量比較)

項目		単位	R03(28期)	R04(29期)	R05(30期)
一般廃棄物排出量			0.60	0.60	0.60
産業廃棄物 排出量	中間処理量 (うち再資源化量)	t	213.60 (160.61)	192.00 (135.87)	151.74 (112.24)
	最終処分量		89.72	88.24	92.00

※廃棄物は一括管理されているため、事業所個々の表記はありません。

【目標値】

30期は29期比同等以下 ⇒ 280.84 t 以下

※30期は、244.34 t で36.5 t(13.0%)減となり目標を達成することが出来ました。

抜型等をまとめて処分することもなく、3Rの活動等により目標を達成することが出来ました。また、
実量比較なので生産量減少が廃棄物削減の一因になったと思われます。

(3)水使用量削減(原単位ではなく実量比較) 注:上段は富士宮工場、下段()内数値は山宮工場

項目		単位	R03(28期)	R04(29期)	R05(30期)
水使用量	上水	m ³	7,138 (351)	4,905 (386)	5,197 (415)
	工業用水		0 (0)	0 (0)	0 (0)
	地下水		56 (0)	138 (0)	118 (0)
	計		7,194 (351)	5,043 (386)	5,315 (415)

【目標値】

30期は29期比同等以下 ⇒ 富士宮工場 5,043 m³ 以下
山宮工場 386 m³ 以下

※加湿器以外は概ね生活用水となっているため、天候や加湿の状況に水の使用量が影響されたものと考えられます。

富士宮工場 272 m³(5.4%)増、山宮工場 29 m³(7.5%)増、全体では 301 m³(5.5%)増となり、目標は達成出来ませんでした。

(4)化学物質使用量削減

項目		単位	R03(28期)	R04(29期)	R05(30期)
化学物質 使用量	トルエン	kg/百万円	3.39	4.43	4.81
	1, 2, 4-トリメチルベンゼン		0.17	0.15	0.13
	1, 3, 5-トリメチルベンゼン		0.08	0.08	0.07
	キシレン		0.08	0.06	0.05
	2アクリル酸ヘキサメチレン		0.02	0.02	0.02
	クメン(キュメン)		0.01	0.01	0.00

※山宮工場において化学物質の使用はありません。

【目標値】

30期は29期比20%削減 ⇒ 0.95 kg/百万円 削減

※30期は、29期と比べて0.33kg/百万円(6.9%)増となり目標は達成出来ませんでした。

トルエンの含有率が高い「FZシンナー」の使用量が多かったため、使用法を更に見直して削減していきたいと思っております。

(5)エネルギー使用量削減

項目		単位	R03(28期)	R04(29期)	R05(30期)
エネルギー 使用量	購入電力 (富士宮工場)	kWh/百万円	1,228.34	1,105.16	1,067.44
	購入電力 (山宮工場)	kWh/百万円	58.02	53.29	54.19
	ガソリン	L/百万円	0.21	0.29	0.28
	灯油	L/百万円	7.60	5.57	4.45
	都市ガス	m3/百万円	5.52	6.68	7.29
	液化石油ガス (富士宮工場)	kg/百万円	0.17	0.13	0.10
	液化石油ガス (山宮工場)	kg/百万円	0.04	0.04	0.04

【目標値】

30期は29期比2%削減 ⇒ 購入電力(富士宮工場)	22.10 kWh/百万円	削減
購入電力(山宮工場)	1.07 kWh/百万円	削減
ガソリン	0.01 L/百万円	削減
灯油	0.11 L/百万円	削減
都市ガス	0.13 m3/百万円	削減
液化石油ガス(富士宮工場)	0.0026 kg/百万円	削減
液化石油ガス(山宮工場)	0.0008 kg/百万円	削減

※結果は以下のとおりです。

購入電力(富士宮工場)	…37.72kWh/百万円(3.4%)減で目標を達成出来ました。
購入電力(山宮工場)	…0.90kWh/百万円(1.7%)増で目標は達成出来ませんでした。
ガソリン	…0.01L/百万円(3.4%)減で目標を達成出来ました。
灯油	…1.12L/百万円(20.1%)減で目標を達成出来ました。
都市ガス	…0.61m3/百万円(9.1%)増で目標を達成出来ませんでした。
液化石油ガス(富士宮工事)	…0.03kg/百万円(23.1%)減で目標を達成出来ました。
液化石油ガス(山宮工場)	…±0kg/百万円(±0%)で目標は達成出来ませんでした。

富士宮工場では、高止まりしている電気料金を抑えるため意図的にガス空調(都市ガス)を多用しました。それで購買電力については目標を達成出来ました。都市ガスについては目標を達成出来ませんでした。

灯油を表面加工のボイラーに使用していますが、製造工程でのボイラー使用の増減が目標達成に影響しています。

環境経営計画の実績・取組結果とその評価

(注:取組結果とその評価は山宮工場含む)

(○:順守・実施されている、(達成)、△:一部順守・実施されている、×:順守・実施されていない、(未達成))

課題	環境経営計画	取組	結果	評価
廃棄物排出量削減	①廃棄物の分別及び指導と整理整頓を継続する。	○	13.0%減	○
	②製紙特寸による用紙削減を図る。	○		
	③廃液削減装置を継続活用する。	○		
	④3Rを推進する。	○		
	⑤印刷不良の原因特定と対策で廃棄物排出量を削減する。〈テーマ④〉	○		
	⑥抜型用ベニヤと用紙使用量を削減するため取り都合を見直す。〈テーマ⑥⑧〉	○		
	⑦ペーパーレス化を推進する。〈テーマ③〉	○		
	⑧良品作りによる異常やショートを削減する。〈テーマ⑦〉	○		
	⑨段ボールの再利用を推進する。	○		
二酸化炭素排出量削減 ・ エネルギー使用量削減	①製版起因の再版出力を削減する。〈テーマ⑤〉	○	15.6%減	○
	②不在者エリアなどの不用照明をこまめに消灯する。	○		
	③空調機フィルターの清掃を推進する。	○		
	④ボイラーを停止する。(昼休み時間)	○		
	⑤UVランプの消灯を推進する。(切り替え時・昼休み・機械修理時)	○		
	⑥空調設備の適切な運転をする。	○		
	⑦資材と物流関係における輸送方法の見直しでCO2排出量を削減する。〈テーマ①〉	○		
	⑧取り都合改善による製造時間を削減する。(エネルギー使用量削減)	○		
	⑨ペーパーレス化を推進する。(CO2削減)〈テーマ③〉	○		
	⑩品質を安定させ生産効率を上げる。〈テーマ⑦⑨〉	○		
水使用量削減	①タイマー管理等により地下水汲上を最少量にする。	○	5.5%増	×
	②防火用水(貯水池)の補水を最少量にする。	○		
	③こまめな節水を実行する。	○		
化学物質使用量削減	①環境への負荷が少ない物に替えていく。	○	6.9%増	×
	②溶剤のムダ使いをしないように使用量の適量管理を行う。	△		

※〈テーマ①〉等は、P.17～19「11.環境及びSDGsに関する活動とまとめ」の〈テーマ①〉等を指します。活動の詳細が記載されているので、ご参照下さい。

評価のコメント(目標未達については、原因・対応策を含む)

(廃棄物排出量削減)

抜型等をまとめて処分することもなく、3Rの活動等により目標を達成することが出来ました。
また、実量比較なので生産量減少が廃棄物削減の一因になったと思われます。

(二酸化炭素排出量削減・エネルギー使用量削減)

各種活動の成果として環境負荷は大きく低減されました。
また、購入電力のCO2排出係数が小さくなったことで、目標を大きく達成することが出来ました。

(水使用量削減)

加湿器以外は概ね生活用水となっているため、天候や加湿状況により水使用量が増えたと考えられます。加湿器の設定見直しやこまめな節水を心掛けていきます。

(化学物質使用量削減)

トルエン含有率が高い「FZ シンナー」の使用量が多かったことで、化学物質使用量削減には至りませんでした。FZ シンナーはウエスにしみ込ませたりして使用しますが、必要以上を使用しないよう使用法を見直します。

次年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境経営目標	環境経営計画
廃棄物排出量削減 30期比同等以下 (実量で比較)	①資源ごみと廃棄物の分別を徹底する。
	②製紙特寸による用紙削減を継続する。
	③廃液削減装置を継続活用する。
	④3R推進を継続する。
	⑤不良を削減し品質安定により廃棄物排出量を削減する。
	⑥取り都合改善による用紙使用量を削減する。
	⑦インキ使用量の適正管理を行う。(廃インキの削減)
二酸化炭素排出量削減 ・ エネルギー使用量削減 30期比1%削減	①製版起因による再版出力を削減する。
	②不在者エリアなどの不用照明をこまめに消灯する。
	③空調のフィルターを定期的に清掃し設定温度を遵守する。
	④ボイラー停止とUVランプの消灯を継続する。(昼休み時間など)
	⑤取り都合改善による製造時間を削減する。(エネルギー使用量削減)
	⑥資材と物流関連における輸送方法の見直しでCO2排出量を削減する。
	⑦原反幅を狭くし最少の材料で製品を作る。
	⑧ペーパーレス化を推進する。(CO2削減)
	⑨トイレ使用時などの節水を推進する。(CO2削減)
	⑩不良を削減し品質を安定させ生産効率を上げる。
水使用量削減 30期比同等以下 (実量で比較)	①タイマー管理等により地下水汲上を最少量にする。
	②防火用水(貯水池)の補水を最少量に管理する。
	③こまめな節水を実行する。
化学物質使用量削減 30期比30%削減	①環境への負荷が少ない物に替えていく。
	②溶剤のムダ使いをしないように適量管理を継続する。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

下記の環境関連法規等は遵守されています。違反、訴訟等は、過去3年間ありません。

環境 関 連 法 規	排出等の規制・公害防止 関連の法律	・環境基本法
		・水質汚濁防止法(水濁法)
		・騒音規制法
		・振動規制法
		・悪臭防止法
	廃棄物・リサイクル・循環型 社会形成関連の法律	・循環型社会形成推進基本法
		・廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)
		・資源の有効な利用の促進に関する法律(資源有効利用促進法)
		・特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)
	地球環境・省エネルギー・ 化学物質関連の法律	・地球温暖化対策の推進に関する法律(地球温暖化対策法)
		・フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)
		・エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)
		・特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR法)
		・PCBの適正な処理の推進に関する特別措置法
	その他条例・規則	・静岡県環境基本条例
		・静岡県地球温暖化防止条例
		・静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例
		・静岡県地下水の採取に関する条例
		・静岡県生活環境の保全等に関する条例
・富士宮市環境基本条例		
・富士宮市廃棄物の処理及び清掃に関する条例(富士宮市廃棄物処理条例)		
他 関 連 法 規	工場立地に関する法律	・浄化槽法
	防災・労働安全に関する 法律	・消防法
		・労働安全衛生法(安衛法)
		・作業環境測定法
	化粧品製造に関する法律	・医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 (医薬品医療機器等法)

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

30期もいろいろと取り組んでいただき、ありがとうございました。

環境経営方針に掲げた重点テーマの内、⑦グリーン購入の推進と、⑧生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組の推進については、もう少し検討が必要と思います。

⑦については材料等の購入に関わりのある職場に検討してほしい。⑧については各職場で取り組んでもらっているSDGs活動の内、工場内外の美化に関しては何らかの関連付けができると思います。

31期はこれらを含め、更なる活動の活性化を期待します。

【代表者の指示】 環境経営方針、目標、計画、実施体制は継続とする。

10. 次年度以降の目標値

30期を基準に次年度及び中長期目標(28期基準)を下記のように設定しました。

課題	中長期目標	短期目標
二酸化炭素排出量削減	31期は28期比5%削減	31期は30期比1%削減
廃棄物排出量削減(注1)	31期は28期比同等以下	31期は30期比同等以下
水使用量削減(注2)	31期は28期比同等以下	31期は30期比同等以下
化学物質使用量削減	31期は28期比5%削減	31期は30期比30%削減
エネルギー使用量削減	31期は28期比5%削減	31期は30期比1%削減

注1) 廃棄物については、売上高に関係なく削減することを目標にするため、原単位ではなく実量で比較する。

注2) 水使用量についても、原単位ではなく実量で比較する。

※29期よりラベル部門・Xレイ部門が加わっているが、廃棄物排出量と水使用量の中長期目標は28期同等以下を目標とする。

11.環境及び SDGsに関する活動とまとめ

・管理 G 資材及び物流

〈テーマ①〉 輸送関連の CO2 排出量削減

実施計画：①29 期取り組み内容の継続。②追加策の検討～実施（随時）。

〈目標〉 CO2 排出量 21.945 t 以下/月、削減量 1.155 t/月 （29 期実績比 5%減）

〈活動とまとめ〉

今期は輸送関連の CO2 排出量を削減するべく、資材及び物流の輸送便集約を柱として活動を進めた。上期から開始した物流の運行回数の集約においては、月々の回数こそ少ない結果であったが、積み重ねたことでそれなりの成果は出せた。省エネ運転による燃料費の削減については、近距離輸送の増加に伴うマイナスの結果であったが、CO2 削減量は今期月平均で 1.371 トンと目標に対し達成率 119%の結果となった。

・管理 G 全体（生産管理・資材・物流）

〈テーマ②〉 SDGs 活動の推進

〈目標〉 SDGs 活動を社員に定着させる

〈活動とまとめ〉

今期は SDGs 活動を社員に定着させるべく SDGs 委員会を中心に活動を進めた。結果、管理 G における持続可能な取り組み内容を選考した事で、誰もが自主的に取り組みに関われる環境が構築でき、社員への定着化は図れた。

・管理 G 生産管理

〈テーマ③〉 ペーパーレス化推進

〈目標〉 コピー用紙の廃棄量削減… 39.8 kg/年（3.31 kg/月）

CO2 排出量削減… 21.6 kg/年（1.80 kg/月）

〈活動内容〉 用紙手配および変更連絡表コピー用紙の削減、工程仕様登録書のコピー用紙削減(追加施策)

〈活動とまとめ〉

用紙廃棄量削減： 41.55 kg/年

CO2 排出量削減： 22.59 kg/年 [達成率 104%]

上期については受注量が多く成果が順調に推移していたが、下期に入ってから受注量が減少したことで目標達成が危ぶまれた。しかし、3 月より追加施策を行ったことで無事に目標を達成することができた(追加施策なしだと 99%)。引き続き追加施策を模索しペーパーレス化を進めていく。

・印刷 G

〈テーマ④〉

印刷不良の原因を特定して的確に対策を行い、不良による廃棄量を削減して環境負荷低減を図る

〈目標〉 環境負荷低減目標：廃棄による CO2 排出量 1,926 kg以下（29 期 43%削減）

〈活動とまとめ〉

累計 950.5 kg（達成率 203%）

CO2 排出量は目標の半分以下と大きく削減することができた。来期は更に改善できるよう新たな活動を進めていく。

・印刷 G

〈テーマ⑤〉

製版起因による再版出力を削減して、使用量削減により環境負荷低減を図る

〈目標〉 環境負荷低減目標：PS 版製造における CO2 排出量 1,818 kg 以下（29 期 30%削減）

〈活動とまとめ〉

累計 1593.6 kg（達成率 114%）

上期は目標を超えそうであったが、下期は再版出力が抑えられ、目標内に抑えられた。

操作に対する確認とイメージ通りの修正が来ているのかの確認を徹底し、下期は再版出力が抑えられた。しかし、人的要因の発生が確認されたので、改善できる余地はあると思われる。

来期の課題として品質改善に取り組む。

・加工 1G

〈テーマ⑥〉 材料と使用方法を見直して環境負荷低減を図る

〈目標〉 排出量 100kg 削減（製造・廃棄換算）

〈活動とまとめ〉

①廃棄箔材の RPF 化[CO2 累計削減量]

②ベニヤ板のロス削減[CO2 累計削減量]

①②の施策による[CO2 累計削減量] 228.5kg となり、目標に対して 228.5%の達成となった。

廃棄箔材の RPF 化について廃棄場所に掲示し、施策をしたことで、各作業員も RPF 化とは CO2 排出量を削減するだけではなく SDGS 活動の 1 つであることを理解し環境活動に対しての意識が向上した。また、本活動では一つの成果を上げたことに満足せず取り組みを続けたことで、目標を大きく上回る成果を上げることができた。特にベニヤ板に関する取り組みは、アイデアが膨らみ活動を派生させたことで、3 件の取り組みとなった。

・品質保証 G

〈テーマ⑦〉 不良を削減し、廃棄物排出量、エネルギー使用量、CO2 排出量を削減する

〈目標〉 1. 30 期：パッケージ部門クレーム 21 件以下、ラベル部門クレーム 3 件以下

※11 月度より山宮工場クレーム 0 件を加えて取り組む

2. 30 期：印刷工程ショート金額 1,800 千円以下、印刷工程規格外作業 75 件以下

〈活動内容〉 1. 工場全体の品質安定

2. 印刷工程の品質安定

〈活動とまとめ〉

30 期累計：パッケージクレーム 19 件（内、山宮工場 3 件）、ラベルクレーム 1 件にて全体としては目標値内で目標達成であるが、山宮工場の目標は未達となってしまった。

30 期累計：印刷ショート 637,795 円、印刷規格外作業 76 件にて、ショート金額については目標値内で目標達成だが、規格外作業については、1 件超過し目標未達となってしまった。

一部目標を達成出来なかったが、ここ数年ではクレーム件数、ショート金額共に、最も良い結果であったことから、品質安定と共に廃棄物排出量、エネルギー使用量、CO2 排出量の削減に効果があったものと考察する。

・ラベル部門

〈テーマ⑧〉 最少の材料で製品を作る

〈目標〉 材料の使用量を 5%削減して CO2 排出量を 4.59kg/月削減する

〈活動内容〉 原反の幅方向削減への取り組み

〈活動とまとめ〉

累計 20.92kg 累計目標(50.49kg)の 41.4%

対象製品の注文が少なく達成率は低い結果となった。

材料の使用量を減らす活動は今後も継続して行きたい。

・Xレイ部門

〈テーマ⑨〉 生産効率を上げて使用電力を削減する。

SDGs の 7 項目を推進する。

〈目標〉 電力使用量を 10%削減して CO2 排出量を年間で 3,981kg 削減する。

〈活動とまとめ〉

全工程の日産予定数を向上させて生産効率を上げる活動をした。

通期での CO2 排出量の削減は、目標 3,981kg に対して実績は 6,851kg で 172.1%の効果となった。

・美化活動

令和 6 年 4 月 27 日（土）に、従業員および従業員の家族等の有志が集まって工場敷地内と外周の清掃と植栽活動を行いました。

多くの有志が集まり力を合わせて活動したため、作業は順調に進み工場内外がとてもきれいになりました。また、参加者ひとり一人が植栽をしたことで、自分達が植えた植物に愛着を持って維持していこうという意識づけが出来ました。





—以上—